

今年こそ、この時季ならではの、ここにしかない感動と出会う

京都・奈良

桜の絶景

めぐり

宮

895年に平安遷都1100年の  
として創建。150本ある  
の優美な姿は、感動的な美しさ。  
近が、特にすばらしく見渡すかぎり  
が展開される。  
京区岡崎西天王町97  
0221  
0(受付～17:00) 拝観料¥600  
月下旬～4月中旬

撮影／水野克比古 水野秀比古(京都府庁) 松谷大慶(妙心寺、嵐電)  
六田知弘(吉野山) 星野佑佳(吉野山、屏風岩公苑、又兵衛桜)  
文／小原誉子 本誌編集部  
協力／NPO法人 京都観光文化を考える会・都草



### 龍安寺

石庭で有名だが、春は、その研ぎ澄まされた景色が、艶やかな姿へと変貌。庭を縁どる油土壁沿いの枝垂れ桜が、摒越しに白砂の庭へと枝を垂らし、この時季だけの秀麗な景色を見せてくれる。境内には山桜や里桜なども多く、石庭からの散策路は、心躍る桜道となる。  
●京都市右京区龍安寺御陵下町13  
☎075-463-2216 8:00～17:00  
拝観料¥500 見ごろは3月下旬～4月中旬。

### 寺

大原野にある古刹。連山や京の町を望む白砂の石庭にも、や山桜が。丸い花の里桜も華やか。  
●京都市西京区大原野南春日町1102  
☎075-31-0105 9:00～17:00  
拝観料¥300 見ごろは3月下旬～4月中旬。



### 妙心寺 退蔵院

40余りの塔頭の中でも庭園の見事さで知られ、特に昭和の名造園家、中根金作設計の「余香苑」の枝垂れ桜の華麗さに心奪われる。  
●京都市右京区花園妙心寺町35  
☎075-463-2855 9:00～17:00  
拝観料¥500 見ごろは4月上旬～中旬。



### 上賀茂神社

樹齢約180年の古木の白枝垂れ桜をはじめ、京都御所から奉納の山桜や、鮮やかな紅枝垂れ桜など、見ごたえのある桜がそろう。  
●京都市北区上賀茂本山339  
☎075-781-0011 芝生内は拝観自由  
楼門内は8:00～17:00 無料(特別参拝¥500)  
見ごろは4月中旬～下旬。



### 天龍寺

嵐山を借景に、枝垂れ桜が咲き乱れる広大な境内は春爛漫。その中で、たつぷりと大きな花の山桜が、ひときわ貴祿を誇る。  
●京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町68  
☎075-881-1235 8:30～17:30  
庭園参拝¥500 見ごろは3月下旬～4月中旬。

3月を迎えると、京都は冬の衣を脱ぎ、桜色の艶やかな着物をまとう。南から北へと桜の蕾はほころび、山桜、枝垂れ桜、里桜、ソメイヨシノなど種類豊富な桜たちが、その美しさを競い合う。桜は、もちろん全国で見られるが、やはり京都で見える景色は格別。特に、風に花枝をなびかせる枝垂れ桜は、平安時代の都人の雅さを想像させ、京都らしさをいっそう誘い、見るたびに心躍る。石庭や塔、朱塗りの社殿など、寺社仏閣の古色を帯びた建造物を背景に見ることがするのも京都ならではの、同じ品種の桜でも、背景が異なれば、まったく別の趣となり、新鮮な驚きと出会えるはずだ。京都の寺社仏閣では、それぞれ庭や建築物に合うように、桜の木を選び、枝ぶりや形を整えている。同じ枝垂れ桜でも、枝の流れが美しい楚々とした雰囲気や、傘を広げたような華やかなものなど、さまざま。一度は訪れたことがある寺社仏閣でも、春は、こんな景色があったのかと驚かされることもあるだろう。古都だからこそ出会える絶景。その感動は、つきることがない。

## 京都府庁

御所にほど近い京都府庁の旧本館中庭には、のびのびと枝を伸ばす、大きな枝垂れ桜が。桜守の佐野藤右衛門さんの命名による容保桜や、円山公園の初代枝垂れ桜の孫桜など、6本が咲く。明治37年に建てられたルネッサンス様式の洋館との組み合わせも、ほかとはひと味違った趣。  
●京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町  
☎075-414-5435 10:00～17:00 無料  
見ごろは3月下旬～4月上旬。

町のあちこちで、  
ふと足を止めてしまおう  
表情豊かな桜たち



## 鴨川沿い

町を流れる川や疏水沿いは、気軽に桜を楽しめる場所。なかでも今出川通の北で合流する賀茂川と高野川沿いに続くソメイヨシノの並木は、周囲の山を背景にした心なごむ風景。紅枝垂れのトンネル「半木の道」もおすすめ。見ごろは4月上旬～中旬。



## の桜のトンネル

北野白梅町駅からスタートする嵐電北野線。東山～鳴滝駅の区間は、春、線路の両わきの桜並木がトンネルに。夜は、ライトアップされた桜が輝くように、車内灯を消してくれるという計らいも。見ごろは4月上旬～中旬。



いつも夕方には閉門してしまふ京都の寺社も、ほうぼうでライトアップが行われ、桜の時期だけは、夜に訪れる楽しみが加わる。夜の闇に黒く影となった建造物を背景に、ライトアップで浮かび上がる幻想的な枝垂れ桜は、京都だからこそ出会える妖艶な姿。夕暮れ時から眺めれば、刻一刻と変わりゆく様子に言葉を失うだろう。そして、桜めぐる町歩きも、京ならではの楽しみ。桜の開花は、町を流れる鴨川に沿うように、南から北へ、そして周囲を取り囲む山々へと、日を追うごとに進んでいく。鴨川、疏水、白川、高瀬川など、水辺の桜並木は、川を包むように続く。桜のトンネルの中を歩く楽しみは、心躍るものがある。京都で桜を楽しむ時期は、3月上旬から4月下旬と意外に長い。山桜や里桜など種類が豊富なうえ、自然交配で次々に新種が生まれているため、ソメイヨシノのようにいつせいに咲かず、開花時期が分散しているからだ。観光名所以外にも見事な桜は多く咲き、思わぬ感動に出会えることもある。だからこそ、京都の町を歩いてほしい。